

No.144

そとくうん



昭和51年12月15日創刊

宮城県登米農業改良普及センター
～人と技術が織りなす活力ある登米農業～

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5
TEL (代)0220-22-6111 FAX 0220-22-7522
E-mail : tmnokai@pref.miyagi.lg.jp
URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



○トピックス

- ・アグリレディーズ・生研グループの研修会
- ・未来塾スマート農業研修会
- ・地域計画第3回「協議の場」
- ・登米地域金のいぶき・だて正夢栽培塾

○露地園芸品目導入の手引きの紹介

プロジェクト 課題No4
「グリーンな栽培体系」の現地説明会

主な重点活動の紹介

No.1 地域における新たな担い手の確保・育成、女性農業者の活躍支援

地域農業の将来を担う新規就農者の確保・育成、並びに女性農業者の経営参画の促進・活躍支援を行っています。

○就農希望者への支援

就農希望者に対し、個別相談や定期開催されている就農相談会において、円滑な就農につながるよう関係機関と連携しながら、栽培や経営に関する指導及び就農計画の作成等を支援しています。

○新規就農者への支援

新規就農者の熟度に合わせ、個別巡回による指導の他、登米市サポート巡回や登米農業マイスター（先輩農家）からの指導の機会を設けるなど、関係機関と連携し新規就農者の技術力・経営力の向上に繋がるよう支援しています。また、新規就農者に共通する課題解決に向け、「みやぎ農業未来塾」を定期開催しています。

○女性農業者への支援

女性農業者のスキルアップやネットワークづくりを目的に、女性農業者向けのセミナー等を開催しています。



4Hクラブ、関係機関が集まったの登米市出身農業大学在校生への説明会(4/26)

No.2 地域計画の策定・公表に向けた支援

人・農地プランの法定化により、各市町村では令和7年3月末までに、目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」を定め、公表することとしています。

○地域計画策定に向けた協議の場における意見集約支援

地域計画の策定では、ワークショップ参加者の主体的な参画のもとで地域の課題解決に向けた積極的な話し合いが行われることが重要です。そのため普及センターでは関係機関と連携し、リラックスした雰囲気のもとで円滑に話し合いができるよう支援しています。

○地域計画案のとりまとめ支援

登米市では、旧町単位での「地域計画」策定に取り組んでいますが、意見集約の単位が大きいため、とりまとめに向けた関係機関の役割が重要となります。普及センターでは、各関係機関が効果的に連携できるよう支援しています。



第3回協議の場における話し合いの様子

No.3 登米地域園芸重点品目の生産振興

みやぎ園芸振興戦略プランの「登米圏域戦略プラン」に掲げる重点振興品目の生産振興のため、技術支援等を行っています。

○若手いちご生産者を中心とした、生産技術等向上支援

若手生産者を中心に、JA部会の組織活動を通じた技術講習会、現地検討会を行い環境制御や肥培管理、病虫害防除について指導を行うほか、花芽分化の結果に基づく適期定植についての指導などいちごの生産技術及び収量向上に向けた支援を行っています。

○ピーマンの栽培技術向上と栽培実践者の拡大

令和3年から新たな野菜品目として作付け拡大に向けた取組が進められており、JAと連携した講習会・現地検討会の開催により、ピーマンの安定生産を支援しています。

○りんごのジョイント栽培支援

管理作業の省力・軽労化や早期成園化を見込める“ジョイントV字樹形”の管理技術向上を支援しています。



ピーマン現地検討会の様子

No.4 資材価格高騰を背景とした耕畜連携による堆肥等の有効活用支援

世界情勢の変化等により、数年前の2倍近くまで価格が上がった肥料もあるなど、資材価格高騰は農業経営に大きな影響を与えています。耕種農家の肥料コスト低減を支援し、併せて畜産農家から発生する家畜糞尿を有効利用することを目的として、堆肥の利用を勧めています。

チラシを作成して市内の農家の方に配布したほか、水稻や大豆の現地検討会時や普及センターに土壤分析を依頼した方に対し、堆肥利用について説明を行い、利用促進を図りました。

堆肥の適正利用に向けて、チラシには管内7か所の有機センターの堆肥の特徴や、栽培品目別の利用量の目安も記載しています。

堆肥利用についての質問等がありましたら、普及センターまでお問い合わせ下さい。

**土づくりや肥料費低減のために
もっと堆肥を活用しましょう!**

★堆肥の利用は年々減少傾向にあり、地方低下が心配されます。地力の低下は、農産物の品質低下につながります。
★土中の窒素は、10aあたり年間100kg程度分解され消失するというデータもあり、これは**生産量の約1/3**に相当します。
★有機センターの堆肥は、発酵・分解が進み、肥料成分が高いという特徴があります。そのため、土づくりだけでなく、肥料としての効果も期待でき、肥料削減につながります。

堆肥の効果

●**物理性の改善**
○団粒構造の発達
○透水性・透水性・保水性の改善

●**生物性の改善**
○微生物の活性化
○土壌生物多様性の増加
○養分供給力向上

●**化学性の改善**
○腐植力向上
○陽イオン交換能力の向上

●**農薬、リン酸、カリの補給**
●**養分要素の補給**

項目	堆肥	堆肥	堆肥	堆肥	堆肥
窒素	2.7	3.8	1.3	1.8	3.6
リン	0.7	0.8	2.4	2.2	1.7
カリ	4.7	3.0	4.9	3.8	3.1
有機質	28.4	26.5	23.5	20.9	26.2
窒素当量	11.9	11.8	14.8	15.7	16.1

※1 堆肥の成分は、発酵・分解の程度により異なります。堆肥の成分は、発酵・分解の程度により異なります。堆肥の成分は、発酵・分解の程度により異なります。
※2 堆肥の成分は、発酵・分解の程度により異なります。堆肥の成分は、発酵・分解の程度により異なります。堆肥の成分は、発酵・分解の程度により異なります。

◎堆肥製品価格
5,300円/1,000kg (令和6年8月31日現在(税別価格、管内有機センター一括))
◎堆肥利用効果
水肥で堆肥を1tに施用し、基礎5期以降・連作なしの場合、肥料費は約3割削減できます。(1tあたり削減率40%相当)

～**堆肥利用に当たっての注意**～
①実際の成分供給量は、土壌タイプや気候により異なります。
②長年運用した耕種や施設栽培では、堆肥量によっては養分バランスが崩れ、作物への影響や環境負荷が心配されますので、土壌分析等で確認の上、堆肥や肥料の量を決定して下さい。
③その後、使用に当たっては不明点は普及センターにお問い合わせください。

◎堆肥製品価格
5,300円/1,000kg (令和6年8月31日現在(税別価格、管内有機センター一括))
◎堆肥利用効果
水肥で堆肥を1tに施用し、基礎5期以降・連作なしの場合、肥料費は約3割削減できます。(1tあたり削減率40%相当)

◎堆肥製品価格
5,300円/1,000kg (令和6年8月31日現在(税別価格、管内有機センター一括))
◎堆肥利用効果
水肥で堆肥を1tに施用し、基礎5期以降・連作なしの場合、肥料費は約3割削減できます。(1tあたり削減率40%相当)

チラシはホームページにも掲載しています

アグリレディース・生研グループの研修会を開催しました!

令和6年7月29日、登米合同庁舎5階会議室で、登米地区農村生活研究グループ連絡協議会員を対象としたグループ員研修会「家庭で余った野菜等の活用法」を開催し、女性農業者8人が参加しました。この研修会は、会員相互の交流と資質向上を図ることを目的として開催したもので、今年度は「会員が自宅で生産している野菜等の保存・加工などを勉強したい」と意見が出され、元普及指導員で登米市在住の佐藤氏に講師を依頼しました。研修会では、参加した会員全員から、それぞれの保存や加工方法などを発表してもらったあとに、講師にアドバイスをいただき、充実した研修会となりました。

また、令和6年7月30日、美里町の菜園レストラン「野の風」において、アグリレディースネットとめの学習会を開催し、女性農業者7人が参加しました。この学習会は、登米市内の女性農業者に担い手として力を発揮していただき、農業政策に女性の声が反映されるようにするために、「学び、交流し、お互いを高めあうこと」を目的に開催したものです。講師は、第55回農林水産祭内閣総理大臣賞を受賞された伊藤恵子氏に依頼し、女性の経営参画と地域活性化に積極的に取り組む姿を学びました。講師の実体験に基づいたアグリビジネスへの取組、役割分担に基づく法人経営の展開、女性の地位向上のための活動など、講演内容が素晴らしかったことから、参加者の評価が高い学習会となりました。



グループ員研修 (7/29)



学習会 (7/30)

令和6年度みやぎ農業未来塾を実施しました!

令和6年7月19日、迫川沿岸土地改良区の会議室を会場に、みやぎ農業未来塾生とほ場整備地区担い手を対象とした合同研修会「スマート農業の概要と高収益作物の栽培について」を開催し、計27人が参加しました。

登米市迫町古宿地区は、農地集積、大区画化による低コスト化、スマート農業の導入による省力化などを目指し、令和6年度農業競争力強化農地整備事業に採択されています。

今回の研修会は、県と包括連携協定を締結しているヤンマーアグリジャパン株式会社に講師を依頼し、スマート農業の概要と活用事例、水稻乾田直播栽培や土地利用型野菜栽培の機械化について、盛り沢山の内容で勉強することができ、参加者から好評を得ることができました。

普及センターでは、今後もスマート農業の推進と高収益作物の生産拡大に向けた取組及び新規就農者への支援を行ってまいります。



合同研修会の様子

豚熱の発生を防ぐため、畜舎への野生動物の侵入防止と消毒を徹底しましょう!!

地域計画第3回「協議の場」の運営を支援しました

登米市では、将来の地域農業の夢を描いた「地域計画」の策定を進めており、農業者が話合った結果を広く反映した内容とするために市内9地区ごとに「協議の場」を開催しています。昨年度は各2回の「協議の場」で「地域農業の課題とその解決策」、「10年後の効率的な耕作に向けた目標地図の原案」が検討されました（142号に掲載）。

それを踏まえた第3回「協議の場」が6月下旬～7月上旬に各地区において2部構成で開催されました。第1部は、これまでの協議内容を元にまとめられた「地域計画素案」のプレゼンテーションと意見聴取、第2部は、農業委員等が進行役、普及センターを含む関係機関職員が補佐役となって目標地図原案の作り込みが行われました。

登米市地域計画は、今年度末に策定・公告される見込みです。普及センターでは、できるだけ地域の実情に合った計画となるよう、引き続き支援してまいります。



第3回協議の場 第2部

登米地域金のいぶき・だて正夢栽培塾を開催しました！

登米市は、本県ブランド米の牽引役とされる「金のいぶき」、「だて正夢」の栽培が盛んな地域です。

高品質化・収量の安定化に向け、「登米地域金のいぶき・だて正夢栽培塾」を令和6年7月9日に開催しました。あいにくの雨模様でしたが、生産者や関係機関を含め約30人の参加がありました。

当日は、JA全農宮城県本部から「金のいぶき」「だて正夢」の販売状況や実需の評価等について説明があったほか、普及センターからは、生育状況と追肥、病害虫防除を中心とした今後の栽培管理について説明しました。また、今年も高温が予想されることから、飽水管理など、気象条件に留意した栽培についても説明しました。

普及センターでは、引き続き高品質なみやぎ米の安定生産に向けて支援してまいります。



登米地域金のいぶき・だて正夢栽培塾の様子

水田を活用した露地園芸品目導入の手引き(第4版)の紹介

「水田を活用した露地園芸品目導入の手引き」(以下、手引き)は、令和3年に宮城県農業・園芸総合研究所の情報経営部より初版が作成され、令和6年現在は掲載品目等の追加および改訂により手引き(第4版)が発行されています。

本手引きは、水田において露地園芸品目を機械作業により導入する場合、栽培、労働力及び収支の面から検討する際に活用でき、主な構成としては①栽培概要資料(品目の特徴、作業内容・時期、必要労働力、収支等)②経営目標③経営モデル④参考資料(活用可能な補助事業等)⑤経営シミュレーションシート(パソコン上で、各品目の面積、収量、単価等を入力すると、収支試算が可能)となっています。

手引き及び経営シミュレーションシートの電子ファイル(pdf および Microsoft Excel ファイル)は、宮城県農業・園芸総合研究所情報経営部から入手可能となっております。これから露地園芸の導入を検討している方は是非ご活用ください。

(問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所情報経営部 電話 022-383-8119)

栽培概要資料(加工用トマト)

品目	栽培概要	栽培時期	栽培方法	栽培密度	栽培コスト	栽培収量	栽培単価	栽培収支
加工用トマト

経営シミュレーションシート(加工用トマト)

品目	面積	収量	単価	収支
加工用トマト

経営目標(加工用トマト)

経営モデル(加工用トマト)

参考資料(加工用トマト)

栽培概要資料(加工用トマト)